

**【企画展報告】**  
**今村力三郎文庫の世界 Part I**  
—— 88年前の年賀葉書と人縁と地域 ——

専修大学法学部教授 坂詰 智美

1. はじめに

今村法律研究室は、在野法曹として多くの事件に活躍され、戦後の混乱期に専修大学総長として尽力された今村力三郎先生を顕彰することを目的に設置された研究室であることは、本室報に記載されている通りである。今村先生が本学に残された膨大な訴訟記録の調査・研究を行い、その成果の一端として今村力三郎訴訟記録を昭和52(1977)年以降発刊し、現在では51巻を数えるまでになった。しかしながら、これらの記録は今村先生が手掛けられた事件のうちのごく一部であり、未だ調査・研究に着手できずにいる事件記録が大半である。訴訟記録の全体像としては、平成7(1995)年に『今村力三郎文庫目録』が作成されているが、目録になっているだけで調査・研究までには到底至っていない。また、当該目録については、不備な点も散見されることもあり、より完全な目録にすべく大学史資料室の力添えを得ながら資料調査を続けている段階である。『今村力三郎文庫目録』の再確認を始めたことについては、既に室報72号において報告済であるが、この作業によって判明したことを、展示という形で多くの方々、特に学生や校友(卒業生)、そして地域の方々などに知ってもらおうというのが、今回の企画展の目的であった。

明治・大正・昭和と多くの法曹人が社会正義のために活動したが、今村先生のように膨大な記録を残している弁護士は見られない。というよりも、裁判所以外において、これだけ多くの訴訟記録が残されている例が稀有なことと言えるかと思う。その資料を、後世に残していくことは、「社会知性の創造」を謳う本学の使命であろう。ただ、弁護士の活動というものは、一般人には見えにくいものであり、そのあり様を見ることについても敷居が高いようである。

今回の企画展は、「昭和9(1934)年の葉書」をキーワードに、今村先生をめぐる

人々、大学や弁護士事務所があった神田の街との地縁などをもとに構成した。

## 2. 企画展の期日および展示場所の記録

本企画展は、計3回にわたって行われた。

〔展示期日〕

①2022年3月22日(火)～同年4月1日(金)

神田キャンパス5号館1階 アクティブラウンジBにて

②2022年4月18日(月)～同年5月6日(金)

神田キャンパス5号館1階 アクティブラウンジBにて

①の会期終了後、学内の先生方や事務の方から「学部生が沢山いる時期にもう一度やってはどうか」と勧められ、実施となった。

③2022年9月19日(月)～同年9月30日(金)

生田キャンパス9号館1階 エントランスホールにて

生田キャンパスでの展示は、「生田ではやらないのか?」という問い合わせをいただいたため、急遽、実施となった。

## 3. 企画展の内容

展示内容および展示物については、以下の通りである。

### ①パネル展示

- 1 専修大学「中興の祖」今村力三郎 略年表
- 2 専修大学コレクション「今村力三郎文庫」
- 3 専修大学と今村力三郎①
- 4 専修大学と今村力三郎②
- 5 代言人と代言人制度
- 6 「反骨」の弁護士 今村力三郎
- 7 88年前の年賀ハガキ2,000通と今村力三郎
- 8 帝人事件
- 9 今村力三郎と東京駅前ビルの弁護士たち
- 10 88年前の年賀ハガキに見る神田界隈の弁護士事務所
- 11 その頃の専修大学は?
- 12 明治期の専修大学出身の法曹
- 13 1892年の代言人名簿にみる専大出身の法曹

## ②展示物

### 1 今村力三郎関連史料

- 卒業証 (1888年)
- 弁護士登録通知書 (1898年)
- 法律顧問の委嘱状 (1900年)
- 東京辯護士會副会長の当選通知 (1911年)
- 杉並区の自宅 (写真)
- 今村法律研究室設置要綱案 (1949年)

### 2 帝人事件関連資料

- 『弁護士今村力三郎氏 帝人事件弁論』(1938年)
- 『弁護士鈴木義男氏 帝人事件弁論』(1938年)
- 「帝人事件弁論抄」(今村力三郎『法廷五十年』1948年所収)
- 「帝人事件の概要」(今村先生による回顧録)

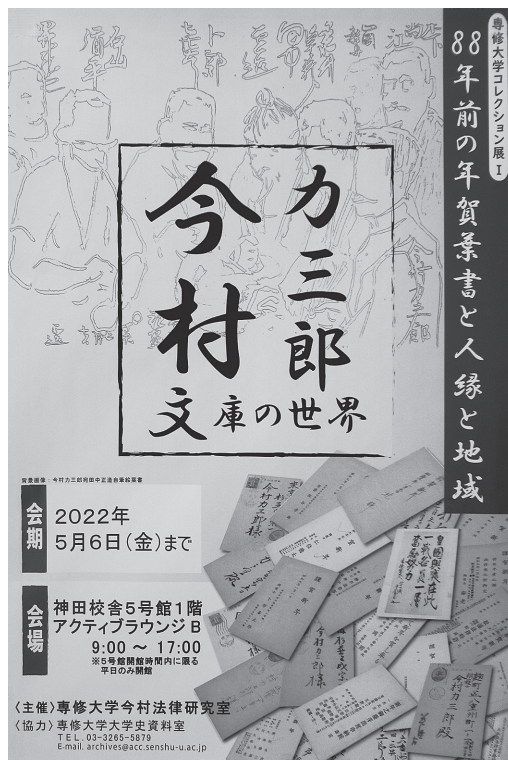
### 3 昭和9年の年賀ハガキ

- 1 阪谷 芳 郎：専修大学第2代学長，初代総長。
- 2 鈴木 義 男：専修大学第7代学長，第2代理事長。弁護士，政治家。
- 3 星 岡 茶 寮：北大路魯山人によって第1回日本風料理講習会として誕生した料亭。
- 4 寺 崎 廣 載：画家・寺崎廣業の令息。
- 5 北 一 輝：戦前の思想家・社会運動家・国家社会主義者。二・二六事件において皇道派青年将校の理論的指導者として逮捕，軍法会議で死刑判決を受け刑死。
- 6 徳富猪一郎：徳富蘇峰(号)。ジャーナリスト・思想家・歴史家・評論家。
- 7 小泉策太郎：小泉三申(号)。大正～昭和前期の政党政治家。
- 8 中 村 不 折：明治～昭和期に活躍した洋画家・書家。夏目漱石『吾輩は猫である』の挿絵画家として有名。
- 9 川 端 龍 子：日本画家，俳人。大田区に龍子記念館がある。
- 10 原 嘉 道：弁護士。中央大学第9代学長。司法大臣，枢密院議長。
- 11 鵜 澤 総 明：弁護士。衆議院議員・貴族院議員。第一弁護士会会長。
- 12 伊 勢 丹：伊勢屋丹治呉服店をルーツとする百貨店。現・三越伊勢丹。
- 13 白 木 屋：江戸時代の小間物店・白木屋をルーツとする百貨店。戦後は東急百貨店と改称されて営業していたが，1999年に閉店した。
- 14 松屋呉服店：明治初期に創業された呉服店がルーツの百貨店。

- 15 三越：江戸時代の三井越後屋をルーツとする百貨店。現・三越伊勢丹。
- 16 花井 忠：弁護士・検事総長。花井卓蔵の娘婿。
- 17 花井 斐夫：日本弁護士会副会長。花井卓蔵の養子。
- 18 堀江専一郎：弁護士。第一東京弁護士会第5代会長。
- 19 岩田 宙造：弁護士。貴族院議員。
- 20 有馬忠三郎：弁護士，弁理士。貴族院勅撰議員。帝国弁護士会理事。
- 21 橋本 武人：弁護士，有馬忠三郎法律事務所所属弁護士。
- 22 毛 受信雄：弁護士，有馬忠三郎法律事務所所属弁護士。

#### 4. 企画展の様子

OBの先生方，教職員の方々，学生，卒業生など多くの方に足を運んでいただいた。



展示会用ポスター



展示物の一部



会場の俯瞰風景

## 5. 今後の企画展に向けて ～展望と課題～

『今村力三郎文書目録』の再確認を行う必要性から始めた調査を、より一般に知ってもらうために始めた企画展であるが、今後に向けての展望を記しておきたい。

『今村力三郎文書目録』は、膨大な資料を有していることは目録よりわかるが、訴訟記録として世に知らしめられたものは、そのほんの一部にすぎない。法律を専門

とする者、戦前の裁判を研究する者にとって、訴訟記録が出されていることは有益であるが、これだけでは本研究室の目的である今村先生の顕彰が達成されたとは言えないのではないかと考えている。市井の弁護士として活躍された今村先生の姿を、法律を専門とはしない「普通の」人々に知らしめていくことも大切であろう。そのためには、ふだんは法律とは程遠い人々に、「こんなすごい弁護士が、かつていた!」ということを、様々な角度から見せていくことが必要なのではないだろうか。

今回の企画展を見に来てくれた卒業生が言った「こんな沢山の年賀状をもらう人がいるなんて……」という言葉は、今村先生の人となりを表しているのだと思う。幅広い人脈を見ていくだけでも、当時の弁護士としての活動の一端が垣間見れるのであり、「人間・今村力三郎」の理解が更に深まると考えている。

今回の企画展を「Part I」としていたことから、企画展の終了直後より、「Part IIはいつやるのか?」との問いをいただいた。膨大な資料を、どのように調査・研究し、一般に向けての展示にまで昇華させるのかは、人的資源に限りがある本研究室としては難しい課題である。しかしながら、まだ語られていない今村先生の様々な姿を、今後開催する企画展を通じて、本学関係者のみならず社会に広く知らしめていくことができれば、本研究室の使命の一端を果たしていけるのではないかと考えている。

#### ※次回企画展に向けて

Part IIに向けて活動を続けていたが、この原稿を入稿(2022年11月29日)した直後より、神田キャンパス5号館1階のアクティブラウンジBでPart IIの展示が始まった。展示期日は2022年12月5日(月)～22日(木)までである。

展示の詳細報告については、次号以降に載せることを予定している。